

五月五日は子どもの日です。祝日しゅくじつほう法によりますと、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。」という趣旨の日のようです。各地では様々な行事が行われています。

お釈迦しゃかさまにも、ラーフラという子どもがいました。漢字では羅睺羅（らごら）とあらわされます。出家する前のお釈迦さまは、シッダールタといいその結婚は十六歳とも十七歳ともいわれています、しばらく子どもができずにいましたが、結婚から十数年が経った頃に男の子を授かります。この子がラーフラです。

この頃シャカ国の王子であった、シッダールタは、老人、病人、死者、出家者しゅつけしゃを見て、世の現実しゅつけを知り出家への固い思いを抱いていたはずです。

子どもが生まれたことを知ったシッダールタ王子は、出家への固い思いと、愛すべき者が生まれた事実への葛藤に悩んだ事でしょう。

また、ラーフラの誕生は、同時にシッダールタ王子の他にシャカ族の王位を継ぐ者が生まれた事を意味しました。

さまざまな思いを乗り越えて、二十九歳でシッダールタ王子は王宮を出て修行の生活に入ることになります。その後、おさとりを開かれ、人々を教え導くお釈迦さまとなり、布教伝導ふきょうでんどうの旅に出て、再び故郷に立ち寄ることになります。

そして、お釈迦さまと再び出会った息子ラーフラも、お釈迦さまの弟子、サーリプッタのもとで出家をします。

その後、ラーフラは修行を熱心に行い、特に戒律かいりつを固く守り、お釈迦さまの弟子の中でも十大弟子じゅうだいでしの一人に数えられ、密行第一みつぎょうだいいちと呼ばれるようになりました。また、後世には中国で十六羅漢じゅうろくらかんの一人としても崇められるようになっています。

『 禅のこころ - 曹洞宗 - 』

このお釈迦さまがラーフラを出家させた事については、世俗的な財産である王位を贈るよりも、人間として、真の幸せである「おさとり」を贈ったほうが良いと考えたとも伝えられています。

今の私たちも考えさせられる話です。子どもたちの人間としての真の幸せを願いたいと思います。

— 終 —